

職業とは何か

梅澤 正 著

著者は、産業社会学専攻（職業社会学，企業文化論，企業社会関係論）で現在，日本教育大学院大学客員教授，NPO法人キャリア文化研究所理事長である。

「職業」という言葉が，使われるべきときに使われず，「仕事」という言葉に置き換えられているのはなぜか。結果として職業の概念は，いよいよ曖昧になっている。「職業観」をしっかりと確立させるためにも，改めて「職業とは何か」を考える必要があるとして，4部構成で読者に問いかけ，著名人の紹介や若者の考え方を織り交ぜ，「職業」について分かり易く説いていく。

第Ⅰ部 あなたは「職業観」を持っているか

今，若者の間にある，「適職こそ職業だ」という職業観は，自分探しに時間をとられ，いつまでも就職に踏み切れないという弊害も出ている。そこで著者は，自己理解よりも「社会理解」の方に重点をおき，内から外へ（インサイド・アウト）ではなく，外から内（アウトサイド・イン）に発想を転換させ，今，社会から要請されている職業的能力についての情報と知見を収集し，就職活動に活かすことを提唱している。

第Ⅱ部 職業は私たちに何を与えてくれるのか

著者は，納得のいく働き方を模索することなくして充実した生き方，豊かな人生を手にすることはできないとして，職業を決めることと人生で何を実現したいかはセットで考える必要があると述べる。さらに，職業は，収入だけでなく，個人と社会をつないでくれる。そこから職業は，人生資源を獲得する最良のチャンスを生み出すと展開する。

著者の論のとおり，学校は，社会へ歩み出す

若者に，生き方と働き方のつながりについて，しっかりと教える場を確保する必要がある。

第Ⅲ部 職業能力を考える

職業を遂行するうえで必要なことは，基礎的能力と固有の能力である職業能力であるが，今，一般学生が関心を持っているのは，「就職力」である。これにより職業の概念が曖昧化し，総じて職業観が未成熟な日本社会の現状がそこに現れており，職業能力の必要性を説く。

さらに，職業人としての自信と誇りを持って生きていこうとするなら，専門性を身につけることは絶対的要件であると強調する。

著者も述べる通り，「〇〇力」という文言が先行し，専門性が二次的になっているところに「職業」が一層曖昧化されているように思える。

第Ⅳ部 「リセット」と「リカレント」で人生を拓く

現代社会を動かし性格づけているITとグローバル化により，職業構造は大きく変動し，必要とされる職業的能力もまた変動している。そのため，現実をしっかりと確認しておくためにも，生涯にわたって学習し続け，自分を鍛え続け，職業的能力のレベルアップとリニューアルを現実のものにすることが求められる。これに根ざすリセットであればよいが，今が不本意だということで転社や転職をし，就業の仕方を変えるやり方では，生業（なりわい）に甘んじざるを得ないと著者は締めくくっている。

リーマンショック後の厳しい就職状況によって，若者や学校が「就活」に走るのはやむを得ないとしても，著者が論じる「職業」を意識して，自己の人生を見据えた「就活」となることを望む。また，現在注目されている「キャリア教育」・「職業教育」をチャンスとして高校・大学で，「職業」について十分に考えることは重要であると思う。本書は，そのことに大いに参考となる一冊である。

（講談社現代新書，173頁，700円）（田中 正一）